

花 筐

百萬の子 長山 三 譽  
百萬 上野 朝 義

連 吟  
西野 翠 舟  
赤井 喜 子  
前田 飛 凧  
渡邊 瑞 子

百 萬

喜轟の里人 福王 知 登  
法楽之舞 従者 廣谷 和 夫

間 門前の者 善竹 隆 平

後見 野村 昌 司  
赤松 禎 友

篠崎 珠 樹 田口 亮 二  
三浦 信 夫 梅若 猶 義  
上野 雄 介 上田 貴 弘  
上野 朝 彦 大西 礼 久

眞 奪

太郎冠者 善竹 隆 平

狂 言

休憩 20 分

主人 善竹 彌 五 郎  
通りの者 小西 玲 央

後見 上吉 川 徹

笠之段

仕 舞

大槻 文 藏

地謡

大槻 裕 一  
大西 礼 久  
齊藤 信 隆  
武富 康 之

江 口

遊女 上野 朝 彦  
遊女 上野 雄 介  
里女 上野 雄 三

間

從僧 矢野 昌 平  
旅僧 福 王 和 幸  
從僧 喜多 雅 人

里人 善竹 隆 司

大鼓 山本 哲 也  
小鼓 清水 皓 祐

笛 赤井 啓 三

附祝言

後見 梅若 猶 義  
大槻 文 藏

地謡

伊原 昇 野村 昌 司  
大槻 裕 一 齊藤 信 隆  
田口 亮 二 藤井 完 治  
武富 康 之 赤松 禎 友

終了予定午後五時過ぎ

能 百萬 (ひやくまん) 法楽之舞

里人(ワキ)が奈良の西大寺あたりで拾った子ども(子方)を連れて、嵯峨清涼寺の大念仏にやって来た。里人は門前の男(アイ)に声をかけ、何か面白い物は無いかと尋ねる。門前ノ者が念仏を唱えようと、百萬(シテ)と呼ばれる狂女が現れ、笹を持ち自ら念仏の音頭を取る。そしてわが子と生き別れになった悲しみから心乱れ、わが子との再会を祈って念仏を唱えているのだと明かす。子どもは百萬が自分の母親だと気づき、里人に百萬の身の上を尋ねさせる。百萬は人前で恥をさらすようなまねをするのも子どもと逢う為だと言って、群集の中に我が子の姿を捜し求める。狂気する百萬を不憫に思った里人は子を百萬に逢わせて、母子は喜びの対面となり、仏力に感謝し奈良の都へと帰って行く。

能 江口 (えぐち)

旅の僧(ワキ)が津の国(大阪)天王寺に向かう途中、江口の里に立ち寄り江口の君の旧跡を訪ねる。昔、西行法師が江口の遊女に一夜の宿を乞い、断られたことを思い出し西行の歌を口ずさむと一人の里女(前シテ)が現れ、西行法師の一宿の願いを断ったが、僧の身を思っで遠慮したためであると説き、僧も出家の身として俗世の事に心を留めぬように、と忠告する。不思議に思っで、僧が女の名を問うと、女は自らこそ江口の君だと告げ消え失せる。(中入)里人より詳しい話を聞き僧が吊っていると、川面に舟を浮かべて江口の君(後シテ)が遊女たち(ツレ)を伴い現れる。船遊びをしていた江口の君は遊女として暮らした身の上を嘆き、この世の生死の悲喜を巡る因果を述べ、舞を舞う。江口の君は執着心をなくせば迷いは生じないと説き、やがて普賢菩薩の姿に変身し舟は白象となり西の空へ消えていった。

本公演における写真撮影・テープ録音・携帯電話等での撮影・録音は、著作権・肖像権に抵触しますので遠慮いただきますようお願いいたします。公演中は携帯電話の電源をお切りください。



上野 朝 義  
シテ方親世流職分  
昭和24年生まれ  
職分故上野朝太郎長男  
親世流25世宗家故親世左近、  
親世流職分故野村幻雪に師事  
日本能楽会会員  
大阪親世会常務理事  
能楽協会大阪支部副支部長  
上野松嶋会定期能主催  
正陽会を主宰



上野 雄 三  
シテ方親世流準職分  
昭和31年生まれ  
職分故上野朝太郎三男  
親世流職分故野村幻雪に師事、  
現在親世流職分大槻文蔵に  
師事  
日本能楽会会員  
上野松嶋会定期能主催  
正陽会を主宰

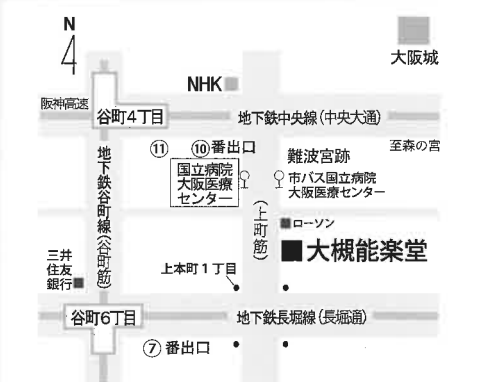


上野 朝 彦  
シテ方親世流準職分  
平成1年8月生まれ  
職分上野朝義長男  
親世流職分故野村幻雪  
師に師事



上野 雄 介  
シテ方親世流準職分  
平成2年2月生まれ  
準職分上野雄三長男  
親世流職分故野村幻雪  
師に師事

正陽会  
しやうやうかい  
上野朝義、雄三兄弟が  
主催する会で、毎年1  
回開催。  
朝義の長男・朝彦、雄  
三の長男・雄介も交え、  
それぞれの研鑽の場と  
している。



大槻能楽堂 06-6761-8055  
大阪市中央区上町A番7号  
地下鉄 谷町四丁目⑩番出口 / 谷町六丁目⑦番出口  
市バス 国立病院大阪医療センター